



第 12 号

発行日
平成24年 4月 9日

編集・発行所
宮城県気仙沼向洋高等学校同窓会
宮城県気仙沼市九条213-3
電話 (0226) 22-1131

睦 水



母校の早期復興(同窓生の絆)

同窓会長 熊谷 幹夫

平成二十四年度入学生の諸君、本日は母校へのご入学、大変おめでとうございます。

昨年度は母校創立百十周年、同窓会発足百周年、又校舎大規模改修工事で二十四年五月には一新した校舎への思いがあつた三月十一日東日本大震災大津波で一変し壊滅的被害、まさに青天の霹靂の思いでありました。多くの同窓会員や身内の方々の被災の中、母校はどうなるとの同窓諸氏の心配の声に同窓会として、母校の為何をすべきか、何が出来るのかの焦燥感に駆られ母校の早期復旧活動をと気仙沼魚市場会議室で総会を開催。向洋高校の早期復旧に関する決議文を全会一致で決議しPTA、教育振興会にも諮り早期復旧・不幸委員会を結成し商工会議所、気仙沼漁

協に県や市に陳情等を行う為の賛同を要請し臼井会頭、佐藤組合長より賛同と強力な支援をお約束頂きました。気仙沼市長、市議会議長、教育長に校舎等教育施設の新しい場所への建設を陳情。菅原市長は「地域の復興に必要な高校」と支援のお約束をして頂きました。森塚男推進委員会と役員で県庁を訪れ村井県知事、島山県議会議長、小林教育長に陳情し島山議長は地元議員の立場で後押しをして頂き村井知事、小林教育長から前向きな回答を頂戴しました。向洋高建設につきましては新聞報道等でご承知の事と存じます。その中で同窓生の強い絆がありました。三月の震災に五月には関東同窓会の皆様が発立三十五周年記念行事を中止しその資金と更に義援金を募り併せ

て百五十万円を三橋会長自ら気仙沼を訪れ本部同窓会を通して母校瀨戸校長先生に手渡されその後も多額の義援金を送って頂き、仙台同窓会の皆様からも母校に義援金が贈られました。本年度入学する生徒諸君も母校を思う同窓生先輩の行為をまさに気水高魂(向洋高魂)と同窓生の強い絆を感じていただければと思います。生徒諸君は、震災での体験がこれからの人生の中で貴重な心の財産となる事と思います。新入生諸君も自身の為、又先輩の為にも大きく羽ばたき母校への帰属意識が高まる事を念じます。



本校同窓会のお力添えを得て

校長 瀨戸 巳治雄

今年の一月十八日の新聞紙上に「二〇一七年度末までに本校の新校舎を建設する見通し」の記事が掲載されました。これは本校にとって大変喜ばしいことです。この新聞発表がなされるまでには、様々な経緯がありました。震災直後にも拘らず、県産業教育審議会が急遽発足され、検討し、答申がまとめられました。そしてその答申を受けて、県教育委員会が県方針として発表されたものがこの記事となります。しかしながら、この県方針が出される経緯には、本校同窓会の大きな働きとご助言があつて、はじめてなし得たことを、

この場をお借りして申し添えます。同窓会という組織は、どの学校にもありますが、本校の同窓会においては、学校の日常教育活動を側面から支援していただくとともに、常に縁の下の力持ちとして支えていただき、その役割に唯々頭が下がる思いがいたします。今年度は特に震災時対応として「気仙沼向洋高等学校の教育環境・施設の早期復旧・復興促進委員会」を組織していただき、会長として森塚男先輩(元本吉町長)のご指導の宜しきを得て、気仙沼市役所はもとより、県関係機関等に連日のようにご足労願ひ、本校のため

にご尽力を賜りました。さらに、気仙沼向洋高等学校同窓会、同仙台同窓会、同関東同窓会より多くのご支援ご協力をいただき、生徒諸君が安心して学校生活が送れる環境整備の一端を担っていただきましたことを心から感謝申し上げます。本日は入学式に当たり、同窓会長の熊谷幹夫先輩をはじめ、多くの関係諸兄のご臨席のもと、厳かに入学式が挙行できましたことは、学校としてこの上ない喜びであります。本日入学した皆さんは、やがて本校の同窓会に入学会事になり、これまで諸先輩方が築いた歴史と伝統を守り、向洋高生として大いに自己研鑽に励んで頂きたいと願っております。

母校の早期復興を願い総会で決議



今年度の総会は去る七月二十九日(金)午後六時より気仙沼市場会議室をお借りして行われました。震災の混乱の最中、母校を思う同窓生約五十名が参加していただきました。震災犠牲者への黙祷、会長の挨拶の後、瀬戸校長先生に学校の現状報告をいただき、また、仙台同窓会からは畠山事務局長に義援金を母校に届けていただきました。総会のメインは母校の早期復旧復興を決議し、県知事への陳情行動を決め氣勢を上げて閉幕しました。

宮城県気仙沼向洋高等学校の早期復旧等に関する決議
 「気仙沼向洋高等学校」は、三月十一日に発生した東日本大震災によって、壊滅的な被害を被った。

さて本校の歴史は、明治三十四年(一九〇一年)、当時の気仙沼町議会において町立水産補習学校設置議案が可決され、歴史は始まった。

この間、町立水産補習学校から明治三十五年には「郡立水産学校」に、大正九年(一九二〇年)には「宮城県水産講習所」として移管、昭和二年(一九二七年)水産講習所廃止に伴い「宮城県水産試験場気仙沼分場講習部」として教育を継続し、昭和十七年(一九四二年)四月「宮城県水産講習所」として再び改組され、昭和二十年(一九四五年)四月に甲種水産学校に昇格(教育課程に移管)、さらに昭和二十三年(一九四八年)四月には新制高校下のものと「宮城県気仙沼水産高等学校」と昇格した。

その後、宮城県教育委員会の「再立高校組織編成計画」により校名変更並びに学科改編計画で、平成六年(一九九四年)四月に校名は「宮城県気仙沼向洋高等学校」とし、全学科男女共学各科学員四十名となり今日に至っている。

明治から大正、昭和、平成と激動と激変する政治・経済、社会の荒波を怒濤の如く乗り越え、各界各層に先輩諸兄を輩出し、気仙沼地域経済を牽引してきたと云っても過言ではない。さらに県内随一の水産教育や産業実践教育の伝統を今日まで継承してきた。

しかし、学校教育施設と教育環境は三月十一日、当地方に甚大な被害をもたらした巨大地震と大津波で、未曾有の打撃と衝撃を受けた。

よって我ら向洋高校同窓会は、本日総会の名の下の以下の点を確認し、関係機関や関係方面に強く働きかける。

一、学校教育施設や教育環境の早期復旧を図ること。
 一、緊急避難的に対応とした「学科別分散教育」を早期に解消すること。
 一、予想される宮城県高校再編後期構想計画を一方的に実施しないこと。

平成二十三年七月二十九日

宮城県気仙沼向洋高等学校 同窓会総会

気仙沼の将来を担う後輩たちへ

関東同窓会会長 三橋勝郎

あの日からはや一年。ふるさと気仙沼が一日も早く、復旧・復興が進むことを願わずにおれません。

関東同窓会は、昨年創立35周年を節目の年でした。そのため、一月から記念誌の発行や六月一日(日)には、第一ホテル両国で総会・畠山重篤さんの記念講演・記念誌発行を予定し準備をすすめておりました。

そこにあの大震災。私たちは、役員が連絡を取り合い、三月一四日の段階で六月に予定していた総会と記念事業を中止せざるを得ない」と判断

そこで、①六月二日に予定していた総会・記念講演・記念誌の発行を中止と決定し、②記念事業への寄付と記念誌・掲載予定の祝賀広告料を寄せていただいていた方々へお願いし、救援募金にまわさせていただきます。

いし、救援募金にまわさせていただきます。振り込み用紙を同封し「救援募金をお願い」の発送作業を行いました。

救援募金は、第一次を三月末、第二次を四月末でお願いしましたが、多くの同窓生の皆さんが、実家が流され、身内が亡くなり、行方不明の人がいる等、大きな被害にあっている中、呼びかけに応じてくれたことに、私は心から感謝しています。

寄せられた救援募金の第一次分、百五十万円は、私が四月二八日、当時間借りしていた気仙沼西高を訪ね、熊谷幹夫本部同窓会会長に同席をいただき、瀬戸巴治雄校長に「生徒の皆さんのために」と手渡しました。

さらに第二次分、三十万円は五月

三十日熊谷会長宛てに送金させていただきます。



このほか、同窓生の皆さんは様々な形で気仙沼への支援に取り組んできました。中でも、澤村宗幹事は様々な支援物資を届けながら、自らのバンドのメンバーとともに自分で作詞・作曲した気仙沼の人たちを上げます

「みちのく、気仙沼」という歌を唄って各地をまわり、支援にとりくんだ活動は特徴的なことです。

いま、気仙沼の復興と将来を担う後輩たちが、仮設校舎の不自由な中でも元気に勉学に打ち込んでいます。そして二〇一七年度末までに、母校が階上地域に再建される方針が決定されたことを知り、関東同窓生一同喜んでいきます。

平成22年度 事業報告

22年		
4月 8日	入学式	気仙沼向洋高校
6月10日	第1回役員会	中央公民館
18日	気仙沼高校同窓会総会	気仙沼ホテル観洋
7月 9日	校内事務局会議	気仙沼向洋高校
10日	関東同窓会総会	ホテルグランドパレス 飯田橋
10日	気仙沼高校・向洋高校合同懇親会	ホテルグランドパレス 飯田橋
16日	気仙沼向洋高校同窓会総会	気仙沼ホテル観洋
17日	気仙沼西高校同窓会総会	気仙沼ホテル観洋
24日	仙台同窓会総会	KKRホテル仙台
8月 8日	さんりく同窓会総会	居酒屋あらしき 大船渡
9月28日	第2回役員会	中央公民館
10月 9日	仙台同窓会総会	仙台サンプラザホテル
9日	南三陸六校会	仙台サンプラザホテル
24日	校内事務局会議	気仙沼向洋高校
31日	同窓会親睦フットボール大会	気仙沼向洋高校
12月10日	第3回役員会兼忘年会	泰平寿司
23年		
1月26日	第4回役員会	気仙沼向洋高校
	「睦水」第11号発刊打合せ	
2月28日	同窓会入会式	気仙沼向洋高校
3月 1日	卒業式	気仙沼向洋高校

平成23年度 事業計画(案)

23年		
4月22日	入学式	気仙沼西高校 武道館を借用
7月11日	第1回役員会	くう兵衛(市内)
23日	第2回役員会	くう兵衛(市内)
26日	校内事務局会議	本吉響高校
29日	気仙沼向洋高校同窓会総会	
		気仙沼魚市場 会議室
9月30日	第3回役員会	気仙沼西高校
12月 1日	第4回役員会 兼 忘年会	泰平寿司
24年		
1月27日	第5回役員会	気仙沼向洋高校
	兼「睦水」第12号発刊打合せ	
3月 1日	卒業式 同窓会入会式	
		気仙沼市総合体育館
4月 9日	「睦水」第12号発刊	気仙沼向洋高校

活動の記録

- 7月29日(金) 18:00 平成23年度同窓会総会
気仙沼魚市場会議室 50名参加
- 8月26日(金) 17:00 第1回PTA・教育振興会・同窓会三者合同役員会
魚市場会議室 15名参加
- 9月 4日(土) 18:30 第2回同窓会三役会
くう兵衛 5名参加
- 9月29日(木) 18:30 第2回PTA・教育振興会・同窓会三者合同役員会
魚市場会議室 12名参加
- 10月 7日(金) 13:30 気仙沼漁業協同組合への賛同要請 4名参加
- 10月12日(水) 14:30 気仙沼商工会議所への賛同要請 4名参加
- 16:00 気仙沼市議会議長への陳情 5名参加
- 16:30 気仙沼市長・市教育長への陳情 5名参加
- 10月14日(金) 15:00 宮城県議会議長への陳情 5名参加
- 16:20 宮城県知事への陳情 5名参加
- 16:30 宮城市長・県教育長への陳情 5名参加
- 11月30日(水) 11:00 気仙沼市教育委員会訪問
同窓会側5名、PTA側3名、教育振興会側1名参加
県教委(気仙沼市内南部・階上地区へ)方針示す。
- 1月17日(火)



第1回 三者合同役員会(平成23年8月26日)



復旧・復興推進委員会 会長 森 琢 男

母校の一日も早い再建を願って

向洋高校は、明治三十四年に創立以来、昨年で創立百十周年を迎えました。大規模改修を終え仮設校舎から引越し直前の学校施設と教育環境は、三月十一日の東日本大震災により、未曾有の壊滅的な被害を受け大きな衝撃を受けました。

他校の同窓会の総会が中止となる中、向洋高校同窓会が開催され、気仙沼西高校・本吉響高校・米谷工業高校の三ヶ所に分かれて授業がされている母校の一日も早い復旧に対する決議が満場一致で決議され、同窓会としての母校の復旧・復興に対する取り組みが始まりました。

同窓会、PTA、教育振興会が連携し向洋高校の教育環境・施設の復旧・復興推進委員会を組織し、商工会議所・気仙沼漁協の力強い賛同をいただき、菅原気仙沼市長・

白井市議会議長・白幡教育長に校舎や施設の新しい場所への建設を陳情いたしました。菅原市長は、地域の復興に必要な高校と理解を示し、一緒に頑張っていきたいと支援を約束していただきました。十月十四日に、熊谷同窓会長をはじめ幹部で、村井知事・小林教育長・島山県議会議長に校舎・体育館や実習棟の教育施設について新たな場所への早期の復旧・建設を図るよう陳情いたしました。村井知事も理解を示し、小林教育長は場所の問題もあるが旧気仙沼市南部に平成二十九年度末までの新築の方針を示され運動に一定の成果を見ることができました。今後とも母校の再建まで関係皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。これまでの報告といたします。



▲宮城県教育委員会 教育長 小林伸一様



▲宮城県知事 村井嘉浩様



▲宮城県議会 議長 島山和純様



▲気仙沼漁協 佐藤亮輔様

宮城県気仙沼向洋高等学校の早期復旧等に関する陳情
平成23年10月14日

宮城県知事 村井嘉浩様

宮城県気仙沼市赤岩敷155-1 (気仙沼西高等学校内)
気仙沼向洋高等学校復興推進委員会
会長 森 琢 男

〔賛同団体〕
気仙沼向洋高等学校同窓会
会長 熊谷幹夫
気仙沼向洋高等学校PTA
会長 熊谷英明
気仙沼向洋高等学校教育振興会
会長 菅原正記
気仙沼漁業協同組合
代表理事組合長 佐藤亮輔
気仙沼商工会議所
会頭 白井賢志

1. 陳情の趣旨
本年3月11日の東日本大震災により、未曾有の壊滅的な被害を受けた宮城県気仙沼向洋高等学校の校舎並びに体育館や実習棟等の教育施設について、新たな場所への早期の復旧・建設を図るようお願い申し上げます。

2. 陳情の理由
本校は、明治33年(1901年)気仙沼町立水産補習学校として創立、その歴史が始まりました。その後、慶多の遷移を経て昭和23年(1948年)4月、「宮城県気仙沼水産高等学校」に、そして、平成6年(1994年)4月には校名を「宮城県気仙沼向洋高等学校」に変更いたしました。以来、3学11学年120名の専門高校として今日に至り、今年で創立110周年を迎えました。明治から大正・昭和・平成と激動する政治・経済、社会の荒波を渡海に如く乗り越え、各分野に有能な人材を輩出し、気仙沼地域経済を牽引してきたと言っても過言ではありません。さらに県内唯一の水産教育や産業実践教育の伝統を今日まで継承してきました。しかし、学校教育施設と教育環境は3月11日、当地方に甚大な被害をもたらした巨大地震と大津波で壊滅的な被害を受け、その現状は一変しました。学校経営の厳しさ何よりも在校生の教育環境を考えると、一日も早い復旧・復興を願わずにはられません。よって我々宮城県気仙沼向洋高等学校復旧復興推進委員会は、以下の点について陳情いたします。

- 一、学校教育施設や教育環境の早期復旧を図ること。
- 一、緊急避難的な対応とした「学科別分散教育」を早期に解消すること。
- 一、予定される宮城県新高校採擇構想を一時的に実施しないこと。



▲気仙沼市長 菅原 茂様



▲県知事の陳情(平成23年10月14日)



▲気仙沼商工会議所 会頭 白井賢志様



▲気仙沼市議会 議長 白井真人様

学校便り

進路指導部長 小野寺 博

進路状況

平成二十三年度の進路状況は、進路決定率九二・三％(卒業予定者一〇四名中、九六名が決定、と高い数字です。震災の影響により厳しい結果を予想しましたが、概ね生徒のほぼ全員が進路を達成しつつあります。

就職については、六六名中六十名が決定しました。今年の就職の特徴は、事業所が被災し昨年度までの求人がなくなり、必ずしも生徒が希望するとは限らない復興復旧関連の求人が増えたことです。また、県外の企業においては被災地からの採用枠を設けたり、増やしたりしました。地域別の人数は、地元は九名、県外が三一名、仙台を中心とした県内が十六名という結果になりました。職種については、情報海洋科は物流関連と情報通信が強く、産業経済科は食品製造やサービス関連、機械技術科は機械関連の製造・技術職など、取得した資格や技術が活かされる企業に入社しており、今後の活躍が期待されます。

進学は三六名で、海洋系、食物系、工業系な

各学科の現状と課題

情報海洋科 後藤和政

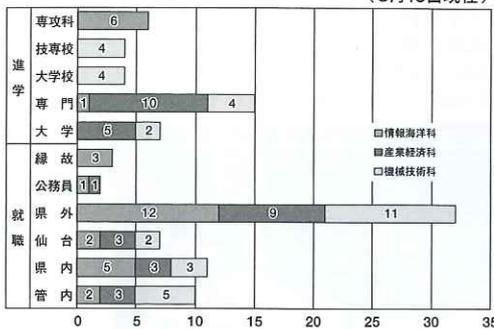
今年度、情報海洋科と専攻科は五月から十月末まで本吉響高校の校舎を間借りし学習していました。震災により、多くの実習施設設備が流失し、教材が整わない中での授業、実習の展開となり、実習内容、実施場所の変更を余儀なくされました。その中でも、九月までは河川調査や隣市の登米市民プールを利用した潜水実習、十月は宮城水産高校にてレジャー実習を行い、仮設校舎が完成した十一月からは、寄贈された小型船舶を利用し操船実習を行うことができました。また海での潜水実習は二年生においては乗船実習の寄港地(沖繩)にて実施、三年生においても沖繩で開催されたマリンスポーツ大会に招待され実施することができました。このように今年度においては本校の設備が整わ

ど更に上級学校へ進学し学習を深めようとしています。公務員は、消防士や自衛官を希望する生徒が何人かいましたが、自衛官のみ二名の合格にとどまっています。

今年度の進路希望達成については、生徒諸君は非常に高い実績を残してくれました。今後卒業生の方々の厚いご支援をよろしくお願い致します。

2011年度 第3学年進路決定状況

(3月16日現在)



ない環境ではありましたが、多くの方々からのご協力ご支援をいただき実習は例年に近い形で実施することができました。生徒においては環境の変化に柔軟に対応し、熱心に学習活動を行う様子が見取ることができ、たくましさを感じました。

今後水産業、船員の担い手を育成する教育機関として

同窓生、地域の皆様のご協力をいただきながら、引き続き施設設備の充足に努め、より良い環境で学習活動が展開できるように工夫して参ります。



◆宮城丸出港式にて

情報電子類型 高橋春義

今年度は、五月よりの三校での学科ごとの授業では本吉響高等学校の教室を何となく無く過ごさせていただきました。その間、七月には三年生二名が第一級陸上特殊無線技士に全員合格して免許を取得し、九月には二年生十九名が第三級総合無線通信士国家試験(法規)を受験し、十七名が合格するなど資格取得に取り組む、前年度よりも実績を上げる結果となりました。また、三年生の進路決定においても殆どの生徒が震災前の希望を優先して企業選定が出来ました。十月中旬には就職希望者全員が内定通知を手にすることが出来ました。十一月より仮設校舎に移り、授業や実習で必要な十六部屋中十二部屋が復旧しました。今年度は実習棟が出来き、残りの四部屋も確保出来る見通しが付きました。

この様な大変な時期においても安心して過ごせるのは、生徒のやる気や笑顔に支えられていることに今さらながら気づかされ毎日を頑張っています。

今後とも変わらぬご協力とお力添え、ご支援をお願いして現状報告といたします。いよいよと考えている次第です。どうぞこれからも頑張りますので温かいご支援ご声援を宜しくお願いいたします。

産業経済科 船引裕介



◆DD-AI総合種合格!!

産業経済科は、震災により製造工場を失いました。授業は気仙沼西高校で再開しました。これまで行ってきた実習を西高の施設を借りて実施してきました。食品製造実習は家庭科調理室、食品化学・衛生実験は化学室、情報処理実習は情報処理室を借りて行いました。実習施設としては、当然不足がございましたが、工夫で補って実習を行ってまいりました。

生徒達は西高に在る間も元気に明るく生活していました。実習や資格取得にも積極的に取り組んでおりました。特に三年生の課題研究では自分でテーマを決め

て、アイデアと工夫で熱心に取り組まされた。最後の発表会ではどの班も成果を発表することができました。

仮設校舎に来てからは産業経済科の国際情報処理室があり、それ以外には化学室と調理室を実習室として使っています。流し台の不備や、機器の不足をこれから改善して、できるだけこれからのような実習ができるようにしていきたいと進めています。スペースや工事の関係など課題がまだまだ山積しています。

現在は仮設実習工場の建設に向けて準備しています。以前のように本格的な生産実習や食品販売ができる衛生的な施設の建設に向けて、保健所のアドバイスを受けた大きな前進ができています。



◆西高とお別れ会 豚汁600人前製造

機械技術科 武田修司

機械技術科は、五月九日、米谷工業高校の一面をお借りし授業・実習の展開となりました。

機材も十分に揃えられない中、様々な分野のご協力をいただき、技能検定、アーク溶接特別教育、ガス溶接技能講習などの資格検定に取り組みました。

人材育成事業として技能五輪スキル見学会、技能検定機械保全三級講習会、技能検定機械検査三級講習会等を実施しましたが、多くの卒業生に支えられたと感じています。

十一月から移転した仮設校舎には実習室が二部屋しかありませんでしたが、米谷工業さん、企業さんに様々な機材をお借りし、実習が一通りできる実習室を構成することができました。今後更に仮設実習棟が完成次第、機材を徐々に復活させていく予定です。

同窓会の皆様、様々な面でご支援いただきました心から感謝申し上げます。



◆米谷工での実習

気仙沼向洋高等学校校歌

- (1) 鼎が浦に 生いたちて 建学ここに 幾星霜 久遠の歴史 固めつつ 海の文化の 象徴と 湾頭高く 輝ける おお 気仙沼向洋高
- (2) 望めば遠し 太平洋 金波は踊る 海の幸 科学の力 傾けて 宝庫開かん 使命こそ 我らが担う 誇りなる おお 気仙沼向洋高
- (3) 世界にひびく 水産の 営れを挙げん 我らなり 暖流運か 南より 盛り止り来る 八百潮の 高鳴るごとく 讀えん おお 気仙沼向洋高



平成24年3月撮影

編集後記

同窓会会報「睦水」第12号の発行にあたりまして一言御礼の言葉を申し上げます。本来は卒業式に間に合うよう発行しようとしていたのですが、本日の入学式にずれ込み大変申し訳ありませんでした。この震災で多忙を極める諸先輩方、先生方からは快く原稿等をお寄せいただきましたが、事務局の力不足が原因でございます。お陰様で貴重な資料となり得るものが出来ましたので、今後ともよろしくお願致します。

睦水編集委員会